



2014

ANNUAL MEETINGS

International Monetary Fund
World Bank Group

Washington, D.C.

October 10, 2014 (J)

Address by **CHRISTINE LAGARDE**,
Chairman of the Executive Board and
Managing Director of the International Monetary Fund,
to the Board of Governors of the Fund,
at the Joint Annual Discussion

70周年を迎えた IMF：正しい選択をする－昨日、今日、明日

クリスティーヌ・ラガルド
国際通貨基金 専務理事

IMF・世界銀行年次総会

2014年10月10日、ワシントンDC

はじめに

総務会委員長、総務並びに来賓の皆様、

IMFを代表いたしまして、2014年年次総会にこうして皆様をお迎えできましたことを光栄に存じます。また今年にはIMFの誕生70周年記念にもあたります。皆様、そして188の全ての加盟国の皆様、お誕生日おめでとうございます。

私の良き友人で素晴らしい同僚であるジム・キム総裁、そして世界銀行で見事な活躍をされているチームの皆様、お誕生日おめでとうございます。

ともに歩んできた70年間の旅を振り返るのに相応しい時を迎えました。さらに重要なことは、未来を見据える時でもあるということです。今日の我々の決断が、我々の未来を形作るのです。

あるお話からはじめましょう。

ルイス・キャロルの名作**不思議の国のアリス**のなかに、少女アリスが分かれ道に差しかかるシーンがあります。ここでアリスは**チェシャ猫**と出会い、チェシャ猫にどちらの道に行くべきかたずねます。

チェシャ猫は言います。「それは君がどこに行きたいかによるよ」

「別にどこでも良いのだけど」と答えたアリスにチェシャ猫は言いました。

「じゃあ、どっちに行こうと大した問題じゃない」

なぜ本日、私はこのエピソードからお話したのでしょうか。理由はシンプルです。我々が分かれ道で選ぶ道は、重要な結果を引き起こすからです。

道を選択するためには、我々がどこに行きたいか、が重要です。

分かれ道

およそ 100 年前に、世界は極めて悪い選択をしました。当時は、技術が大きく進歩し楽観主義と開放と寛容の時代でありました。しかし、こうした驚くべき技術の進歩を、人類のためではなく、大規模な破壊のために使いました。

協力のための門は施錠され閉ざされたのです。

こうした誤った選択のために、世界は大虐殺、混乱、禍の 30 年を過ごすことになりました。しかしその後、何かが変わりました。

70 年前の 1944 年、世界は再び岐路にありました。そしてこの時、世界は正しい道を選択しました。これが最初の「多国間主義の時」となり、IMF や世銀といった協力のための組織が生まれました。

ジョン・メイナード・ケインズはこれを、「我々が誕生させようとしている、より大きなもの」と呼びました。

この選択は 10 年にわたり、更なる繁栄、更なる安定、そして貧困削減といった利益をもたらしました。次から次へと発生する危機との戦いを支え、低所得国や移行期にある国々などの世界経済での足場固めを支援し、能力、力、そして頑健性の構築で全ての加盟国を支えるなど、IMF は重要な役割を果たしてきました。

現在、IMF は現地の状況への強力かつ柔軟な対応を継続して行っています。2008 年以降、我々は必要に迫られた国々に対し約 7,000 億ドルの融資を約束し、研修を全加盟国に、技術支援をその 90% に提供してきました。最近数カ月だけでも、ウクライナ、移行期にあるアラブ諸国、エボラ熱の被害が拡大するアフリカ諸国に、新たに金融支援を行いました。

ブレトンウッズから 70 年経ち、国際社会はまた新たな岐路に立っています。実証済みの協力の形にほころびが生じているようです。世界経済のエンジンの持続可能性がますます疑問視されるようになってきました。

人々が切望する雇用、所得、生活水準の向上を実際に達成することができるのでしょうか。

我々が一体となり選択すべき選択肢が三つあります。

- 第一に、繁栄の促進と社会的調和の確保に必要な成長と雇用をどのように実現するか。私はこれを**加速と停滞**の間での選択と呼ぶことにします。
- 第二に、現在の相互に関連した世界を、我々全てが繁栄できるより包摂的で、より安全な世界にするためにはどのようにしたら良いか。これは**安定と脆弱**の間の選択です。
- 第三に、孤立主義と偏狭ではなく協力と多国間主義を強化するためには、どのようにすべきか。これは、**結束と隔絶**の間の選択です。

我々の未来は我々の選択によるのです。

1. 加速と停滞

では第一の加速か停滞という最も基本的な選択からはじめましょう。成長と雇用の見通しです。我々の道には、大きな障壁が三つあることは誰の目にも明らかです。

先進国・地域そして新興市場国・地域ともに、世界で最もダイナミックな国や地域の多くで労働力が退職する時を迎えるなど、前例にない人口動態の変化を経験しています。10年を待たずして、65歳以上の年齢がはじめて5歳未満の数を上回ると言われています。

格差が驚くほど広がっています。今日世界の10人に7人が、過去30年で格差が拡大した国に住んでいます。その一方で、我々は過度の格差が、成長を弱め包摂性を妨げ、信頼やソーシャル・キャピタル（社会関係資本）を毀損することが分かっています。

我々は再び、全てが可能性を秘めている劇的なイノベーションの時代に生きているわけですが、デジタル革命は労働集約的ではなく、更なる格差の拡大を引き起こす可能性もあります。

気をつけなければ、19世紀の亡霊が21世紀にも出没することになりかねません。

同時に、急速に温暖化が進むなかでのエコロジー面の惨劇のことも考えなければなりません。過去 17 年間で歴史的な暖冬を 12 回も経験するなど、明確な事実は周知のとおりです。天候に関連した災害数は 1960 年代から 3 倍に増えています。2030 年までに、世界の人口の約半分が、水の問題をめぐる大きな圧力や水不足で悩む地域に暮らすようになると言われています。

しかし、成長への脅威は未来からくるばかりではありません。過去からも我々を襲います。

どういうことでしょうか。グレート・リセッション(大規模景気後退局面)があけた穴から世界経済が這い上がるために、非常に長い時間がかかっているということを示しています。我々は今年の成長率は僅か 3.3%、来年でも 4%に満たないと予測しています。

なかでも特に心配されるのが、痛みを伴う雇用危機から抜け出せないということです。現在、世界の失業者数は 2 億人です。もし失業者で国を作るとしたら、世界で 5 番目に大きな国を形成できるほどです。南欧や北アフリカなど一部の地域では、若者の失業が慢性的な社会問題となっており、幻滅と離脱が広がっています。

ドストエフスキーいわく「味のある仕事を奪われた者は、生きる理由を失う」のです。

結局のところ、我々は成長と僅かな雇用創出という「新たな好ましさに欠ける不十分な状況」から抜け出せなくなる危険性があるのです。これを克服するには、政策面で「新たなモメンタム(勢い)」が必要です。

需要サイドについては、金融政策で確実に回復を支えるべきで、またその際には波及効果や戻り(スピルバック)に留意する必要があります。財政政策は、各国の状況を考慮したものでなければならず、ここ数年の成功を手放してはなりません。同時に、財政政策は可能な限り成長志向で雇用を支えるものでなければなりません。

供給サイドを見ると、多くの面で動きが必要です。サービス業の居心地の良い独占状態の開放であり、インフラ投資の拡大です。またなかでも新興市場国・地域や途上国における、教育機会、金融包摂、そしてビジネス環境の改善です。エネ

ルギー利用の効率化を支援しグリーンな選択を促す、炭素価格制度の導入をはじめとする財政措置の活用です。

これらは新しい考えではありませんが、これまでは行動が伴っていませんでした。今は間違いなく変化の時です。より高い成長を実現するために、我々はより高い位置を目指しより努力を重ね、そしてより連携していかなければなりません。

同時に、我々は雇用市場の包摂性を高める必要があります。つまり、若い人々を支援するための積極的な労働市場政策と研修プログラムが必要であることを意味します。また、より多くの女性の労働力参加を促すための、手ごろな育児システムや柔軟な働き方など一段と家族に手厚い政策を意味します。

世界中で8億6,500万の女性が機会を奪われた状況にあります。しかし、女性が男性と平等な立場で参加できるようにすることで、経済の状況が一変することは皆様ご存知のとおりです。

IMFは、より持続可能で雇用を伴う包摂的な成長を実現するために必要な改革についてその国のための助言を行うなど、この課題で加盟国を支援する用意があります。そのために我々は存在しているのです。

2. 安定と脆弱

では第二の大きな選択である、安定と脆弱についてみていきましょう。現在進行形のそして将来的にも経済成長のリスクが存在するように、金融の安定性にも同じような脅威が存在します。

実体経済は大幅な投資不足で苦しんでいるかもしれません。しかしその一方で、金融部門は、太陽の余りにも近くを飛んでいるのかもしれません。言い換えるならば、*実体面*のリスクテイクは余りにも少なく、*金融部門*のリスクテイクは余りにも多くなっています。

再び申し上げますが、我々に必要な成長を達成するためには、金融政策は今後も緩和的である必要があります。しかし、その副作用のひとつは、無謀なリスクテイクへの暴走という危険をはらんでいるのです。

いくつか危険な兆候は見られるものの、リスクは特にノンバンク部門で顕著です。ひとつ例を挙げてみます。投資信託は、世界の高利回り債券の27%を占めてい

ます。これは2007年の2倍にもなっています。同時に、グローバルな資産運用会社上位10社が実に19兆ドルをコントロールしているなどリスクの集中度は増えています。これは、世界最大の経済大国であるアメリカより大きいのです。

歴史は我々に明らかな教訓を教えてくれています。つまり、ブームが大きければ大きいほど、破裂も大きくなるのです。センチメントの突然の変化が、簡単に世界全体を奈落の底に突き落とす可能性もあるのです。

これは、金融の安定性、ますます相互関連性が高まる世界経済に影響する長期的な問題に影響します。ご存知のとおり、資金フローは、世界中を光の速さで駆け抜けることができます。

IMFの創設された年から、金融統合の度合いは10倍へと急上昇しました。危機前の20年間で、国際的な銀行の融資は対GDP比で250%も上昇しています。

こうした結びつきは、より多くの人々に世界の金融ネットワークへのアクセスをもたらすなど大きなプラスを生み出します。しかし、これには影の部分もあります。金融危機の発生の可能性を高め、また発生した場合にはその感染力は一段と強くなります。2008年の出来事が何よりもこれも物語っています。

最終的には、我々は善を蓄え悪を駆逐できるようになる必要があります。我々は受身ではなく積極的でなければなりません。

タゴールがかつて言ったように「海辺に立ち水を眺めているだけでは、海は渡れない」のです。

このためには、正しい道具と政策が必要です。金融市場がより挑戦的であるならば、政策はより力強くなくてはならず、そして規制当局・監督当局にはより整った制度が必要です。つまりどういうことか。我々は金融部門の改革という課題を遂行しなければならず、金融サイドが新たな抜け穴を探すにあたってより独創的で創造的であるならば、これを繰り返し最新化しなければなりません。

特に銀行規制の面で順調に前進してきました。しかし、我々にはまだ大きすぎて潰せない問題の克服が残っています。ノンバンク向けのより適切なルールが必要であり、また影の銀行部門のモニタリングを改善し、デリバティブの安全性と透明性の向上に取り組む必要があります。マクロプルーデンシャル的な保護措置の強化も必要です。

率直に言いましょう。我々は文化と行動を変える必要があります。危機を引き起こした近視眼的な思考、すなわち分別よりも利益を、奉仕よりも自己利益を、そして倫理よりも過剰を重視する思考から離れる必要があります。

IMFには、この新たな相互に関連した世界に対処するうえで果たす重要な役割があります。

資本が大規模に移動する世界とは、我々にはより大きな世界レベルの安全網が必要であることを意味します。新たな BRICs の外貨準備基金を含め、地域レベルの取極が果たすべき役割は確かにあります。しかし、IMF は、金融の安定性を重視した唯一の真にグローバルな組織として、十分な制度と資源を備えていなければなりません。

力強い世界経済には力強い IMF が必要である—これは 70 年の歴史で繰り返し学んできた教訓です。

3. 結束と隔絶

それでは第三のそして最後の重要な選択である、結束と隔絶についてみていきましょう。連携という旗を高く掲げるか、偏狭という泥に沈み込むか。

答えは明らかです。最も肥沃な土地は共通の土地です。自助の最善な形は相互扶助です。最善の知識の形は知識の共有です。このために本日、我々はここにこうして集っているのです。

このために、皆様は IMF のメンバーなのです。

しかし同時に、世界経済は現在劇的な変化のなかにあることも皆様ご存知のとおりです。50 年前、新興市場及び途上国・地域が世界の GDP に占める割合は約 4 分の 1 でした。現在ではこれが半分となっておりさらに急速に上昇しています。世界危機の間、世界の成長の大半に貢献していたのが新興市場国・地域です。

こうした力の拡散は国単位に限られているわけではありません。テクノロジーに支えられ、より多様な世界のステークホルダー、たとえば NGO や都市、市民活動でさえも急浮上してきています。彼らは、ソーシャルメディアの力を用い、政策の変化を引き起こす力があることを証明してきました。

こうした新たな現実には、新たな対応を必要としています。しかしこれは新たな哲学を指しているわけではありません。我々には、世界協力の形を最新化し適応し深めていくことが求められています。技術の進歩を人類のために使うことが求められています。私が呼ぶところの「新たな多国間主義」が求められています。

マヤ・アンジェロウの言葉を借りるならば「夢を再び生む」のです。

実際にはこれは何を意味するのでしょうか。第一に、開かれた貿易と投資という価値観に再度コミットすることを意味します。「近隣窮乏化政策」経済という誘惑を拒否することを意味します。また、各国それぞれの自己利益より世界の利益を重視することを意味します。

前進することが不可欠である分野は三つです。：

- 第一に、金融部門です。メガバンクの国境を越える破たん処理での合意にむけ協力が必要です。
- 第二に、低所得国が是が比でも必要な歳入の増加に取り組むなか、租税競争は特にこうした国々にとり大きなマイナスとなります。単なる利益追求のために税を一国から別の国にシフトさせることがより難しくなるよう、国際社会には一層の努力が必要です。
- 第三に、対外不均衡です。経常収支赤字の裏には経常収支黒字が存在することは周知のとおりです。赤字国・黒字国ともに均衡と安定性に関して責任を負わなければなりません。

新たな結束は、気候変動の流れを変えるための世界的な行動も必要としています。2015年はまさに運命を左右する年となるでしょう。チャンスを逃すようなことがあれば、世界の最も貧しい人々、これからの世代、そして地球を見捨てることになるのです。

ですから失敗は決して許されません。新たな多国間主義が主流とならねばなりません。そしてIMFには果たすべき極めて重要な役割があります。

日々、そして往々にして夜も、我々の優秀なスタッフと理事会が皆様のために懸命に努力を重ねています。彼らは独自の才能を誇る集団であり、国際公務員としての理想のために献身的に働き、より良い世界を実現するという使命感に忠実です。彼ら、そしてこの70年間でIMFに大きな貢献をしてきた人々全ては、私の大いなる誇りです。皆様も同様にお考えだと思います。

ここで、我々の親愛なる家族であるワベル・アブダーラ氏のことについてお話しさせてください。IMFのアフガニスタン駐在代表を務めていたワベルは、今年はじめのカブールでのテロリストの攻撃にあい無残にも命を落としました。彼はIMFを最も最適に代表していました。ワベルはその人生をアフガニスタンの人々に捧げ、任務の最中に亡くなりました。ワベルを失い心から寂しく感じています。アラビア語でいうように「Inshallah—旅立つ者にご加護がありますように」。

IMFでは、ワベルの死を共に悼みました。しかし同時に、世界協力へのコミットメントを維持するなか、日々彼への尊敬の気持ちを抱いています。たとえば、現地の人々がより良い安定した未来を迎えることができるよう、健全な制度の構築に向けた作業が何よりも重要な、より高いリスクを抱えた国々との我々の仕事の場合もそうです。

我々は今後も現地の変わり行く現実に合わせて変化していきます。そして我々は、IMFのダイナミックな世界に広がる加盟国をより一層代表する組織であるよう努力を続けなければなりません。

これゆえに、2010年のガバナンス改革の完了が極めて重要なのです。加盟国の皆様は、何をすべきか既にご存知でしょう。

正しい選択がなされなければなりません。

終わりに：我々の選択肢

総務会委員長並びに総務の皆様、最後になりました。

この大きな分かれ道において、停滞ではなく加速を、脆弱ではなく安定を、隔絶ではなく結束を選択しようではありませんか。

1914年に選択した道ではなく、1944年の道を選択しましょう。

本日は有名な児童向けのお話から始めさせていただきました。最後もやはり子供向けの有名なお話で締めくくりたいと思います。J・K・ローリングの「ハリーポッター」で、主人公が重要なアドバイスをもらったシーンです。「ハリー、我々の能力以上に我々が真にどのような人物であるかを物語るのが、我々のする選択なのだよ」。

我々の選択です。

ご清聴ありがとうございました。